

ふるさとの民話（第四十六話）

『弁慶の割石』

江曾川の川上に、真っ二つに割れた巨石があった。川が荒れ、その巨石は、埋もれてしまったが…。

その昔、弁慶が、この地を通りかかった時、山の神に、

「お前は、たいへん力持ちだと聞いているが、どれほどなのか。」

と、からかわれた。怒った弁慶は、

「よし、見ている！」

と、そこにあった大きな大きな石を、力まかせに、手でたたいた。すると、その大きな石が、真っ二つに割れて、一片が遠くへ飛び、山の神の足下へ落ちた。そして、その半分は、その地に残った。その巨石の割れ方は、まっすぐで、みごとなものでした。

山の神は、びっくりし、そのショックで、寝込んでしまいました。その後、山は、荒れることもなく、川も、治りました。現在は、誠に残念ながら…。

また、弁慶は、手でたたいたのではなく、「大なぎなた」で切ったとも、伝えられている。しかし、今は、見ることもできず、残念である。

（江曾町 伝承）

